

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No. 106 2026.9.18

発行 寝屋川市自然を学ぶ会

会長 山 田 晃

事務局 寝屋川市高宮 1 丁目 7-9

千 田 正 喜 宅

TEL 090-4036-0719



子ども自然シリーズ講座・小便小僧の不思議 2026.8.1

の ん び り

ゆうだちが やんだあと
はっぱから おちるしずくを
ゆっくり かぞえられるから
のんびりするのも
いいもんだ
たまには やってみな

ひるねから さめたとき
どんなゆめ みたんだっけと
うとうと おもいだせるから
のんびりするのも
いいもんだ
たまには やってみな

ありんこたくじ

ぼったりであった なかまと
あまいもののことなんか
たくさん おしゃべりできるから
のんびりするのも
いいもんだ
たまには やってみな

工藤直子詩集「のはらうたⅢ」童話屋刊

目次

- (2) 行事報告(1) 定例自然観察会 水生生物
- (3) 行事報告(2) みんなの掲示板 伊吹山・山室湿原
- (4) 行事報告(3) 夏休み子ども自然教室 子ども自然シリーズ講座④⑥
- (5) 行事報告(4) みんなで作る自然資料室だより
子ども自然シリーズ講座⑤⑦
大人自然シリーズ講座① 自然塾③④
- (6) 参加・協力行事
 - ・環境フェア・木田小まつり
 - ・図書館科学講座・こどもフェスタ
 - ・望が丘ランチ・エスポクラフト
- (7) 道草散歩を楽しむ

- (8) 自然はすばらしい シダ植物シリーズ 14「ハシゴシダ」
- (9) 自然界のふしぎ 土とは粘土とは2「土と生命2」
- (10) 私の自然観察 身近な昆虫 54「トゲナナフシ」
- (11) 図書紹介 『ギンリョウソウ』
展示会の日程 新会員紹介
- (12) 行事予定 定例自然観察会
 - ④秋の淀川(太閤~出口野草地域)
 - ⑤深北緑地 昆虫 ⑥寝屋川公園 どんぐり
みんなの掲示板
 - ④シダの観察 ^{しらさき} ⑤白 崎海岸 ^{おいし} ・生石高原
- 野外活動センターの環境整備②③ 編集後記

第3回定例自然観察会 水生生物 7月25日(土) 参加者40名(内子ども14名)

～川の生き物、いっぱい捕まえたよ！～

新城 賢浩

今回は、良い天気にも恵まれた自然観察会となりました。猛暑対策としてテントを設営し、開会の話もそこそこに、冷たい水が気持ちいい川へと早速入りました。まずは、事前に仕掛けておいたモンドリの引き上げと、投網の実演からスタートです。投網ではオイカワがたくさん採れました。その後、子どもたちはタモ網の使い方を教わり、川岸を「ガサガサ」と探って魚捕りに挑戦しました。



投網投げた！



冷たい川の水が気持ちいい！

熱中症対策のため途中で一度川から上がり、しっかり休憩と水分補給を挟みながら、思い思いの場所で生き物探しを楽しみました。

採集の後は観察タイムです。オイカワやコイは水槽へ、ヨシノボリやカダヤシなどはアクリルケースに入れてじっくりと観察しました。最後に、メダカとカダヤシの違いなど川の生き物についての話があり、子

どもたちは興味津々で聞いていました。

残念ながら今年もメダカは確認できませんでしたが、フナ、モツゴ、カマツカナなどの魚類7種のほか、アメリカザリガニ、ヌマエビ、イトトンボのヤゴなど、たくさんの生き物に触れ合うことができ、笑顔あふれる観察会になりました。

子どもたちの感想に、「楽しかった」「いろいろな生物の特徴が知れた」などありました。



タモ網部隊が通る



何が捕れたかな？



これがオイカワです



アクリルケースでじっくり観察

第2回みんなの掲示板 伊吹山(高山植物)と山室湿原 ～復活を願う～

8月25日(火) 参加者18名

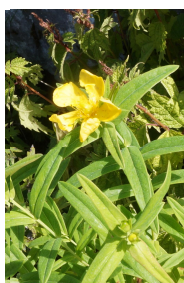
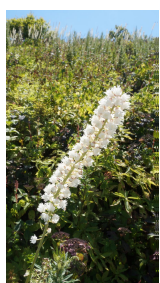
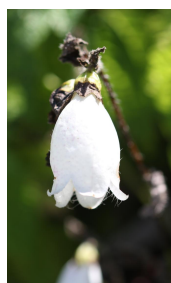
中村 清秀

天候は晴れ、予想外の渋滞で、計画より40分遅れで伊吹山の西コースを登り始めました。シカの被害で減った高山植物ですが、登り始めて早々、ヤマホタルブクロを発見。ソバナ、クガイソウ、サラシナショウマ、フジテンニンソウ、トモエソウ、ツリガネニンジン、ルリトラノオ、コオニユリ等々、赤、白、黄、紫と色とりどりの花々が見られ、少しずつですが花が増えてきたようです。中腹では隠れるように咲いていたヒメフウロを見つけ、山頂付近ではカワラナデシコ、ハクサンフウロとイブキフウロも咲いていました。山頂は大阪と違い心地よい風が吹き抜け、アカネトンボが群れて飛んでおり、秋の気配を感じました。



観察のようす

昼食後集合写真を撮り、再び西コースで下山。教えてもらった花の名前を思い出しながら駐車場へ。紫色のイブキトリカブトの群生も見られました。



ヤマホタルブクロ サラシナショウマ トモエソウ コオニユリ ヒメフウロ カワラナデシコ イブキトリカブト

山室湿原ではサギソウが迎えてくれました。ミミカキグサ、サワアザミ、モウセンゴケなどが見られましたが、カキランは時期が遅かったようで、ハッチョウトンボも見つけられませんでした。

山頂付近で出会った3歳の子どもを連れた若い夫婦が印象的でした。しっかりした足取りで山登りを楽しんでいる子どもと、それを見て満足そうな父と母、自然を満喫しているようでした。この幼子が大きくなった頃には、今よりずっと色とりどりの高山植物でいっぱいの伊吹山に復活していることを願った観察会となりました。



観察のようす



サギソウ

～花々に感動～

中井 栄子

陽射しは強いものの、さすがに1300m超の標高にあるお花畑は風が心地よく元気にスタート!! 花びらの切れ込みの違いや葉っぱの付き方などの特徴を捉えて花を区別することなどを教えてもらいながら、ゆっくりと歩いて山頂に到着。晴天にも恵まれ、次々と可憐な花たちに出会えるのはとても楽しい体験でした。ちなみに私の一番のお気に入りにはカワラナデシコとクサフジです。

また、山室湿原の真っ白なサギソウはまさに白鷺が羽を広げたフォルムで感動しました。季節を変えて再訪し、違った花々を見てみたいと思います。ありがとうございました。



クサフジ

夏休み子ども自然教室 「夏休みの自由研究のヒント」を見つけよう

□子ども自然シリーズ講座④ 7月18日(土) 子ども16名(他27名)

①生き物大すき

～生き物を 育ててみよう！～

講師の山本さんが家で育てている虫たちの話です。4月にアブラナの葉で卵を見つけて、モンシロチョウになるまでの一生の様子を細かく問題を出しながら話されました。同じように、アゲハの一生についても、日々の記録をもとに成虫になるまでを見ていきました。最後に生き物を飼うときの注意があり、自由研究のヒントになったと思います。

子どもたちから
「虫の事が知れて、
良かった」の声がありました。



チョウの幼虫は？

②メダカの飼育と観察

誰もが知っているメダカについて中井さんがわかりやすく話されました。

メダカのオスとメスの違いとか、よく似た「カダヤシ」という魚との違いについては、黒板を使い話されました。また、産卵の条件として水温 20～28℃がいいそうで、近年の夏の暑さはメダカにとっても暑すぎるようです。また、暗い時間がある程度続かないと産卵しないそうです。置き場所に気を付けないといけませんね。細かな説明を子どもたちは真剣に聞いていました。一家族にメダカを10匹程度、おみやげです。うれしそうに持ち帰りました。



わかりました！



できるかな！

③工作「のぼれカブトムシ」

東森さんが講師となり、厚紙に貼ったカブトムシがピンと張った2本の糸の操作で、上がっていくという工作です。厚紙の裏にストローを八の字につけ、その中に糸を通して完成です。下にいたカブトムシが糸を左右で上下すると、上っていきました。

□子ども自然シリーズ講座⑥ 8月1日(土) 子ども16名(他26名)

科学実験 「空気と水の科学」 ～小便小僧の科学～

昨年カミナリの実験をしていただいた坂野玲子さんをお願いしました。水の入ったペットボトルの下の方に穴を開けると水が出るが、ふたをすると水が止まるのはどうしてでしょう。また、そのペットボトルにお湯をかけたら出てくるのは？といったことを一つずつ子どもと一緒に実験しながら確かめていきます。最後に、右の図のようなペットボトルを作り、水が飛ぶのを楽しみました。休憩後、学習したことを応用して、テッポウウオのおもちゃを作りました。



水が出てきた

水の出口にテッポウウオの口を持っていき、ぶら下げた虫に水を当てるおもちゃです。温めるのにドライヤーを使ったのでブレーカーが落ちてしまうほど、熱中していました。「テッポウウオ けっこう飛ばせた」「テッポウウオで虫に当てられなかったけど、楽しかった」「いろんな物を作れて楽しかった」など、多くの感想がありました。



みんなでつくる自然資料室だより

□子ども自然シリーズ講座

⑤水鉄砲 7月26日(日)

子ども19名(他34名)

用意されている竹の筒を適当な長さ
にのこぎりで切ります。初めての子も大
人の手を借りて上手に切っていました。
次に、筒の先に水の出る穴を慎重に
あけ、棒にスポンジと布で水が漏れない
ように調整して押し棒を作ります。出来
上がった水鉄砲を持って、前の広場で遊
びました。「自分で作ったから楽しかった」
「水を入れるときは重たかったけど飛
ばした時は軽かった」「4人でいっ
きにやったら楽しかった」とうれしそ
うに言っていました。



できました！

⑦水辺の生き物 9月5日(土)

子ども14名(他19名)

水辺に親しむ会の新城さんの「寝屋川市
内にはどんなお魚がいるかな？」の問い
かけで始まりました。子どもたちが答
えて、メダカ、コイ、フナ、アメリカザ
リガニ等の映像を見せ、質問も入れな
がら説明されました。子どもたちは
答えたり質問したりして楽しそうでした。
また、家の裏に置いた定点カメラには、
タヌキ・キツネ・アライグマなど多
くの哺乳類・鳥類が写っていました。
貴重な映像でした。休憩の時にはカ
メやタウンギを見たりさわったり楽
しんでいました。

「いろいろな生物の
特徴が知れた」と。



寝屋川には・・・

□大人自然シリーズ講座

① 木のブローチ(千支・午)

6月19日(金) 参加25名

皆さんが楽しみにされているイベ
ントの一つで、何回も来られている方
もおられました。今年は「午」のブ
ローチを作ります。森本さんから、
カッターナイフで削る時にけがを
しないように注意を聞いた後、ひた
すら木を削っていきます。森本さん
とスタッフの助言を得て、最後に思
い思いの色を着けて完成です。

「手が震えて、うまく塗れない」「色
を塗らなかった。これはこれでい
いでしょ。家でニス塗ってみます」
との感想。



皆さんの作品

□ねやがわ自然塾

③「川と暮らし」 6月24日(水)

受講生9名(他11名)

1. 市内の三河川の概要

- ・淀川について
- ・寝屋川について
- ・古川について

2. 水とのたたかい



地図で確認！

④「秋の野草」 9月9日(水)

受講生8名(他12名)

1. 「秋の淀川」資料編をもとに

- ・観察の基本他

2. 淀川の河川敷に咲いている野草を紹介

- ・秋の七草他



この野草は？

参加・協力活動

地域団体などと参加・協力活動を進めました。多くの会員の皆様にご協力いただきました。

□環境フェア 6月14日(日)

子ども200名 協力者15名
第8回寝屋川市環境フェアが中央小学校で開催されました。本会からは例年通り、パネル展示と手作りコーナー(ペットボトルキャップのブンブンごま、どんぐりペンダント、どんぐり工作)で参加しました。作ったブンブンごまを回したり、親子で楽しく過ごす姿も。



トトロ つけよかな

□木田小まつり 6月20日(土)

子ども176名 協力者6名
皿回しとペットボトルキャップのブンブンごままで参加しました。ペットボトルのふたを合わせて、それに紙を巻き付けます。回ると切り込みを入れた紙が広がりきれいです。皿は紙皿の裏に切り取った紙コップの底の部分を張り付けて作ります。どちらも回るようになりますと喜んでいました。



まわれ!

□図書館科学講座 7月12日(日)

～かわる～ 子ども20名 協力者31名
講師の国吉さんによって、紫キャベツの汁を使って水溶液の性質を知る学習が行われました。タレびんで水を吸う練習をした後、用意された容器に10種類の水溶液をとります。そこに、紫キャベツの汁を落とすと、赤、緑、黄などの変化にビックリ。おもわずきれい! 変身ボックスの工作もありました。



きれい!

□こどもフェスタ 8月2日(日)

子ども40名 協力者6名
市民活動センターに登録している31の団体が市民会館4階に集まり、子どもたちを楽しませました。本会の紹介を掲示し、色をつけるこまと皿回しの工作をしました。色を着けたこまを回して、何回も勝負していた子。また、皿回しを作った親子は、子どもが親より上手に回せたので、うれしそうでした。



止まるな!

□望が丘ランチ 8月20日(木)

子ども30名 協力者5名
市立望が丘ランチのこどもまつりで魚のオブジェとどんぐり工作を行いました。魚は頭の本を選び、2本の太めの木を頭に付け、長さの違う枝を魚の形になるようグルーガンでつけていきます。細い枝で尾びれ、輪切りの木で胸びれを付けた後、台に付けると出来上がりです。いろんな魚を楽しんで作っていました。



魚 できた!

□エスポクラフト 9月13日(日)

子ども15名 協力者4名
エスポアールの講座に出向き、写真立てと紙皿の皿回しを作りました。写真立てはどんぐりなどの木の実や枝などを個性豊かに飾っていました。皿回しは回らない子どもは必死で、回った子は得意気で盛り上がっていました。「どんぐりに絵を描いたり位置を決めたりして楽しかった」等の感想が。



道草散歩を楽しむ

本多政雄

河川の指標植物が多い自然が豊かな穂谷川堤防

私の家の前は穂谷川右岸堤防で、堤防上は遊歩道になっており人と自転車が通れます。東へ（上流へ）向かって1.5 kmほど歩くと国道1号線に出ます。国道を渡って5分ほど行くと山田池公園に行けます。途中2ヶ所広場があり、グランドゴルフもできます。ここには遊歩道側にソメイヨシノ並木があり、春の花見は行列なしで、ゆっくり花を楽しめます。この遊歩道が私のリハビリテーションと野草観察の場所です。



春はオオイヌノフグリから始まります。シロバナタンポポ、セイヨウタンポポ、カンサイタンポポ、ヒメオドリコソウ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、タチイヌノフグリ、ナヨクサフジ、セイヨウカラシナ、**チガヤ**、**シナガワハギ**、**キバナカワラマツバ**、**ニワゼキショウ**、**セッカニワゼキショウ**、オオニワゼキショウ、ギシギシ、スイバ、ヒメスイバ、**ユウゲショウ**、ハルジオン（牧野富太郎命名。

別名ハルジオン）、ヒメジオン、ホソムギ、ネズミムギ、カラスムギ、カモジグサ、コバンソウ、**クララ**・・・と種が増えてきます。チガヤ、キバナカワラマツバ、クララは河川の指標植物です。クララは薬草です。殺菌、殺虫作用が認められています。かむと頭がクラクラするほど苦いのでついた名だそうです。チガヤは散歩コースのどこでも見ることができますが、群落が一ヶ所あり、風に白い穂がゆれる様子は美しいです。シナガワハギは外来種ですが、私は2度目の出会いです。江戸時代末期に東京の品川付近で発見されたのでこの名があるそうです。乾燥すると桜と同じクマリンの香りがします。ニワゼキショウとオオニワゼキショウは堤防上広場の桜並木の木陰に生え、セッカニワゼキショウは陽の当たる明るい草地に生えていました。ハルジオンとヒメジオンの見分けはむずかしいです。本来のハルジオンの花のつぼみはピンク色で、開花しても舌状花は薄いピンク色です。しかし、野生化したハルジオンの花は白色で、ヒメジオンと同じに見えます。ハルジオンの開花前の花序が下向きにうなだれているので区別します。以下太字で書いた植物を紹介します。



チガヤ群落



シナガワハギ



ユウゲショウ



ヒメスイバ



ニワゼキショウ セッカニワゼキショウ



クララ



キバナカワラマツバ

自然はすばらしい シダ植物シリーズ14

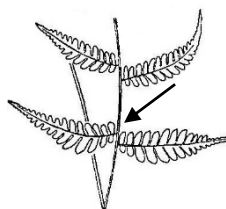
ハシゴシダ 梯子羊歯 ヒメシダ科

天野 史郎

ハシゴシダは里地から山地にかけ普通に見られる暖地性のシダです。根茎は長くはい、葉をまばらにつけます。葉は常緑でうすい紙質をしており、長さ20～30cm、翌年まで枯れずに残ります。葉脈は辺縁に達し、ソーラスは裂片の辺縁よりにつきます。端っこにつくのでハシゴシダと語呂あわせで覚えておくと忘れません。

ハシゴシダの名は、羽片が互生している様子を梯子に見立てたものでしょうが、このような形は他のシダでもよくあります。和名は松村任三によるもので、のちに東大植物学教室教授となり、牧野富太郎とはげしく対立したことで知られています。

近縁種にコハシゴシダがあります。ハシゴシダに比べやや少ないものの、普通に見られます。ハシゴシダとコハシゴシダの中間的なものがあり判断に迷う場合があります。なかでもハシゴシダの小さいものは、しばしばコハシゴシダと混同されることがあるので注意が必要です。図鑑にはコハシゴシダとハシゴシダの区別点に、最下羽片の上向き第一裂片（下図参照）が遊離すると書かれていますが、この点だけにこだわるとほとんどがコハシゴシダになってしまいます。ハシゴシダでも最下羽片の上向き第一裂片が遊離するものはあります。シダの同定会にコハシゴシダとハシゴシダをたくさん持ちこんだ人がいましたが、シダの大御所にして植物の神様といわれた瀬戸先生は大半をハシゴシダと同定し、コハシゴシダは1～2割程度でした。中部より上方の羽片も見て判断することが大切だと言われていたのが印象に残っています。瀬戸先生も昨年亡くなられたのが惜しまれます。



矢印は最下羽片
上向き第一裂片

コハシゴシダはハシゴシダと南方系のヒメハシゴシダがかかわって成立した種と考えられ、両種の間質的な形質をしています。ちなみにヒメハシゴシダは伊豆、紀伊半島から四国、九州以南に分布するシダです。写真には典型的なものを掲載しましたので、同定の参考にしていただければ幸いです。



ハシゴシダ



コハシゴシダ

自然界のふしぎ

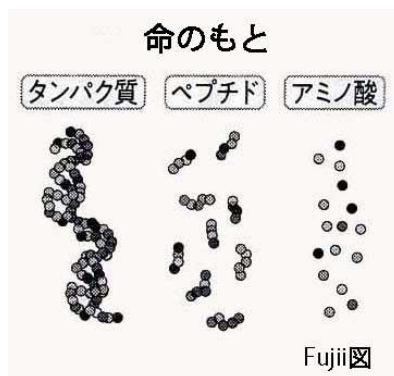
自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「海の火山 1～4」に続いて、今年度は「土とは 粘土とは 1～4」をお届けしています。

土とは 粘土とは2

「土と生命2」

西村 寿雄

先日の新聞にも、生命の元は隕石にある論が紹介されていましたが、生命の元になる原子は宇宙から地球にやってきたことは確かでしょう。それらの原子が結合して生命の元になる物質、タンパク質やアミノ酸、ペプチド(アミノ酸がつながった物質)などを作っているのです。しかし、それらが出来ただけでは、命は起こらなかったという学者が出てきました。つまり、タンパク質やアミノ酸などはいくらあっても結合しなくては命は生まれないというわけです。

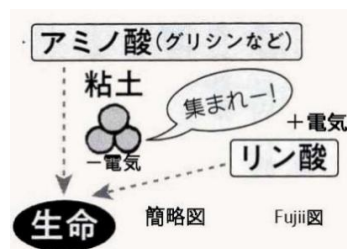
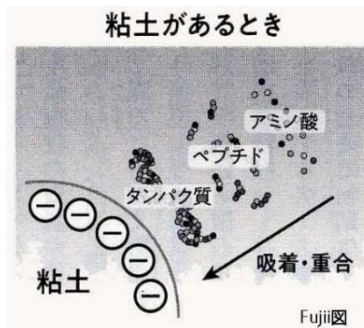


これらタンパク質、アミノ酸などを結合するのに、いるものとは何でしょう。

これらタンパク質やアミノ酸などを結合する元は、地球に豊富にある粘土だそうです。前回の「自然界のふしぎ」を思い出してください。

粘土にはイオンという弱い電気がおおっていました。中はプラス電気ですが周りはマイナス電気です。

この弱いマイナス電気が、タンパク質やアミノ酸、ペプチド(アミノ酸の結合体)などを引っ張るのだそうです。タンパク質やアミノ酸には弱いプラス電気がまわりにただよっていますが、それらだけでは結合しないそうです。つまり、粘土のマイナスが無いと、タンパク質やアミノ酸はいくらあっても命の誕生は起こらなかったというわけです。



たかが粘土、されど粘土ですね。

さて、地球誕生後まもなく、今から約 40 億年前に生まれた命なのですが、長い地球の歴史の中で命はどのように変化(進化)してきたのでしょうか。

今回は生まれた命の変化のドラマについて語りましょう。

私の自然観察

身近な昆虫 54

トゲナナフシ

高本 憲二

庭の手入れをしていて、ふと枯れ枝が動いたように見えたことはありませんか？

今回は、そのユニークな姿から一度見たら忘れられない、擬態の達人「トゲナナフシ」についてご紹介します。夏から秋にかけて、私たちのすぐそばでひっそりと暮らしている昆虫です。

**■「棘」の名を持つ鎧の体**

トゲナナフシは、その名の通り全身に小さなトゲが生えているのが最大の特徴です。他のナナフシの仲間がツルリとした細長い体をしているのに対し、トゲナナフシは少しガッシリとした体つきで、まるでバラの枝やゴツゴツした樹皮の一部になりきっているかのようです。

夜行性のため、昼間は植物の根元や葉の裏でじっとしていますが、見つけることができれば、その精巧なトゲトゲの造形に驚かされることでしょう。体色は褐色から緑色まで個体差があり、周囲の環境に実に見事に溶け込んでいます。

■メスだけで増える？不思議な繁殖

この虫の驚くべき点は、その繁殖生態にあります。日本の多くの地域ではオスがほとんど見つからず、メスだけで卵を産んで増える「単為生殖」を行うことが知られています。交尾を必要とせず、自身のクローンとして次世代を残していくこの戦略は、移動能力が低く、伴侶に出会う機会が少ない彼らにとって、生き残るための究極の知恵なのかもしれません。



その卵もまた、まるで草の実か虫の糞のような形と色をしています。

■ナナフシモドキとの違い

公園や林道でよく見かける「ナナフシモドキ」と混同されがちですが、以下のポイントで見分けることができます。

- ・ナナフシモドキ：体は非常に細長く、トゲはない。触角が極端に短いのが特徴。緑色や褐色の個体が多い。
- ・トゲナナフシ：体に多数の棘があり、ナナフシモドキよりも体つきが太く頑丈そうに見える。触角が頭部の幅よりも明らかに長い。

■観察のヒントと注意点

彼らが好むのは、ノイバラやクサイチゴなどのバラ科の植物、あるいはヤツデやレモンなどの葉です。庭先の植え込みなどをじっくり探してみると、意外な発見があるかもしれません。触っても刺されるような毒や痛みはありませんが、驚くと足を自切（自分で切り離す）してしまふことがあります。観察する際は、無理に引っ張ったりせず、手のひらに乗せるなどして、そつと見守ってあげてください。

身近な自然の中に潜む「動く枝」を、ぜひ会のみなさまと一緒に探してみたいと思います。

図書紹介

～こんな本が出たよ～

「ギンリョウソウ」

たくさんのふしぎ 6月 福音館書店

著者は、「光合成をやめた菌従属栄養植物の生態を研究」(ふしぎ新聞)しているという植物生態学の専門家。そう言えば、2023年の9月にも『「植物」をやめた植物たち』(たくさんのふしぎ)を出している。この本にはギンリョウソウの話がくわしく出てくる。ギンリョウソウの元の植物はツバキとか。

今回はギンリョウソウの新種を発見した経緯をもとに著者の研究歴や新種発見の面白さ、命名する時の複雑さまで書いている。まず最初にギンリョウソウとはどういう植物か。あまり見かけないが里山の陰地によく出ている10cmほどの白い筒状の植物である。光合成をやめているので色は白くて目立たない。

この植物は栄養はどこから得ているのだろうか。地下の根っこの部分で菌とつながっていて根から栄養を得ている。ギンリョウソウといっても種はいくつもある。やがてギンリョウソウの種の話に移る。ギンリョウソウには薄い青みがかった固体もあるとか。著者は霧島でちょっとピンクっぽいギンリョウソウを見つけた。花を咲かせる時期も他のギンリョウソウとは異なる。霧島のギンリョウソウは新種ではないかと著者は考えた。種とは何かから分類の仕方など述べたあと、霧島のギンリョウソウの根の長さや形の違う事を発見。DNA鑑定で遺伝的にも他のギンリョウソウと違うことを見つけ、世界中のギンリョウソウとも比べ霧島のギンリョウソウは新種と断定された。いろんな植物の新種発見のおもしろさも語っている。最後に「何気なく見ている植物の中にも、不思議な秘密がかくされているかもしれません。」と植物観察のおもしろさを語って終わっている。

2025年6月 880円

<西村 寿雄>



お知らせ

展示会の日程が決まりました

○2026年度 展示会「私の自然観察」

日 程 : 2027年3月8日(月)～12日(金)

会 場 : アルカスホール 1階ギャラリー

作品の募集

「自然」に関わる写真などをお寄せください。

詳しくは、次号でお知らせします。ご予約ください。

新会員紹介

会員数152名

(敬称略)

中井 栄子

楊 和子

行事予定

□第4回 定例自然観察会

秋の淀川 出口野草地域

～秋の野草 探してみよう花・実～

◇日時: 9月23日(水・祝)

9:30～12:00 雨天中止

◇集合: 淀川・太間公園駐車場付近 9時30分

◇コース: 太間公園～出口野草地域

◇持ち物: 水筒、雨具、帽子、筆記用具等
身近な自然ガイドブック「秋の淀川」

◇案内: 木村雅行さん



三時草(ハゼラン) 西分室敷地内

みんなの掲示板・自然観察会

第3回 シダの観察 雨天中止

◇日時: 10月12日(月・祝) 9:30～12:00

◇集合: 京阪交野線河内森駅 9時30分

◇持ち物: 水筒、帽子、雨具など

◇案内: 天野史郎さん

◇下見: 10月5日(月)日程は当日と同じ

第4回 ^{しらさき}白崎海岸・^{おいし}生石高原

～ 白い石灰岩と青い海&ススキ大草原 ～

◇日時: 11月10日(火)9:00～17:30

◇集合: 京阪寝屋川市駅東側

アルカスホール前 午前9時

◇持ち物: 弁当、水筒、帽子、雨具など

◇参加費: 6,500円程度 (22名)

◇マイクロバスを利用します。

◇参加申込: 11月4日(水)までに下記へ
中村 (090-8750-5738)

千田 (090-4036-0719) いずれかへ

□第5回 定例自然観察会

深北緑地 昆虫観察

～昆虫さがし・バッタ飛ばし・バッタクイズ～

◇日時: 10月3日(土) 9:30～12:00 雨天中止

◇集合: 深北緑地管理事務所階段下 9時30分

◇場所: 緑地内・深野池付近

◇持ち物: 網、虫かご、水筒、帽子など

身近な自然ガイドブック「虫をさがそう」

◇案内: 高本憲二さん

□第6回 定例自然観察会

寝屋川公園 どんぐりウォッチング

～どんぐり拾い・どんぐり工作ほか～

◇日時: 11月28日(土) 9:30～12:00 雨天中止

◇集合: 寝屋川公園管理事務所前 9時30分

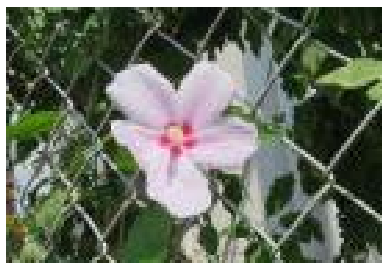
◇コース: 管理事務所→ふれあいの丘→

^{つきみほし}月見橋→時計塔(ここで工作をします。)

◇持ち物: 水筒、雨具、筆記用具など

身近な自然ガイドブック「どんぐり」

◇案内: 木村雅行さん



ムクゲ 西分室敷地内

□野外活動センターの自然観察と環境整備

◇日時: その②: 10月6日(火)10:00～14:00

その③: 12月1日(火)10:00～14:00

◇集合: 野外活動センター 10時 雨天中止

◇持ち物: 帽子、水筒、雨具など

◇内容: 自然観察と環境整備

*お楽しみ昼食あり

◇参加申込:

その②: 10月2日(金)

その③: 11月27日(金)までに

千田 (090-4036-0719)

東森 (090-5645-1531) いずれかへ

編集後記

会報106号を全頁カラー版で届けます。

この夏は、高温の日が続いたり、各地で続いた大雨による水害に心を痛められていることと思います。

そんな中ですが、会報紙面の通り本会の活動は、ほぼ予定通り進めることができました。これからの秋の行事もよろしくお祈いします。自然の不思議さ、おもしろさをみんなで楽しみましょう。

*過去の会報は、本会HP(右のQRコード)から見れます。

